

Web 情報(アドレス)

[ホツマツタエと日本書紀のどちらが古いのか - まとかなる やまと \(fc2.com\)](http://matocayamato.blog62.fc2.com)

<http://matocayamato.blog62.fc2.com/blog-entry-222.html>

上記のアドレスより転記した。

なお、紙面の関係で、写真、段落は、大きさ、段落を変更してあります。

ホツマツタエと日本書紀とを比べる方法論(2) 今回は「方法論」の(2)について述べます。

左欄 (Web より添付の情報)

右欄 (筆者コメント)

(2)は、
「ホツマツタエに出てくる単語の意味は、ヲシテ
文字のイメージを把握して読みとる必要がある」
というものです。

難しく言うと「ヲシテ言語学」ですが、要するに「ヲ
シテの読み方」ということです。

ホツマツタエに「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」という言葉が
でてきますが、これは「日」を「高」く「見る」こと
ではありません。



「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」とは、

「日の出と日没とを見ること」であり、ひいては「太陽の動きを観測すること」です。更には、「春と秋とを観測すること」という意味にもとれます。まとめると、

「太陽を観測して暦をつくること」です。また、「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)(ノ)(ク)(ニ)」とは、「暦を立国の基礎とした国」ということになります。



なぜそうなるかという、ヲシテ文献では、「(タ)」は日の出であり、「(カ)」は日の入りだからです。



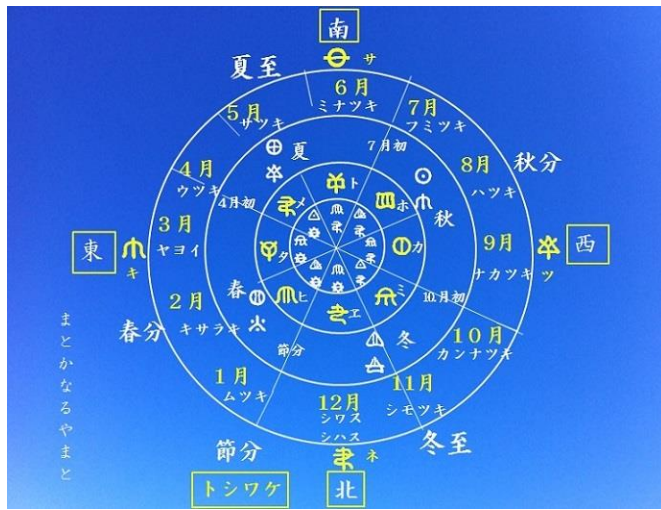
スス暦

ホツマツタエを詳細に見ると、鈴枝穂の御世に、一日、または、五日に対する穂の数を記述した文章があります。このことより、鈴枝穂より大きい穂の数値に換算し、日と関係を詳しく精査しますと、太陽暦の一日を「ある間隔」に「ホツマ・エト」で分けていた。それは、近代の時刻の刻みと同じ思考であったことが立証されています。

(ご参照)

スス暦を太陽暦で解説する。(You Tube)
作成者:吉田六雄

また、「(夕)」は春の意味になり、「(カ)」は秋の意味になります。



画像は池田満著「ホツマ辞典」より引用

更に大本をいうと、「(夕)」には、熱が地表に入ってきて温まってくるイメージがあり、



「(カ)」には、光が去って行って暗くなっていくイメージがあります。

ホツマツタエには、方角、季節が、ヲシテで記述される文章がある。その記述を元に、夕(夕)とカ(カ)の位置をフトマニ図に当てはめると、次の解説になります。

夕(夕)は、左側の円図の中2円目の東の方向に位置する。・ok
カ(カ)は左側の円図の中2円目の西の方向に位置する。・ok

「(夕)」のイメージは、ホツマツタエのどのアヤに記述されるか不明。寧ろ、熱量から見ると、サ(サ)の南が太陽からの熱量が多く温まり易い。そのため、夕の論理が曖昧と思う。

証明の方向性は熱量、光の違いより、本来の東西の方角の役割で説明した方がベータと思われ、一日の太陽の運行と暦の基準が一致します。



これで、ホツマツタエの「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」の意味が読み取れました。

これで、やっと、ホツマツタエの「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」と日本書紀に記載の「日高見」とを比較することができるようになりました。

次は、両者を比較し、「どちらが先と考えるのが合理的か？」という問題を考えてみます。もしもホツマツタエが先だったら？それでは、「日高見」と「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」とを比べてみましょう。

今回は、ホツマツタエが先だと仮定します。「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」は、「日の出と日没とを見ること」であり、ひいては「太陽の動きを観測すること」です。「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」を読みくだと、「ヒタカミ」という音声になります。これを帰化人が帰化人の二世が聞き取って、漢字に直します。ここで、「ヒ」「ミ」にあてた漢字「日」「見」はどちらも訓読みです。一方、「タカ」ですが、「日の出」と「日没」という意味をとれなかったと考えることができます。

日高見

日本書紀は、漢文調で書かれているため、シナ(支那)の辞書を見ると、

日(ri)

太陽、昼間、まる一日、毎日、時期。

高(gao)

高さが高い、等級が上、高さ、高所

見(jian)

見える、見る、触れる、会う、面会

だが、方角、季節の意味はありません。

両者の比較方法について、仮説か、合理性かを論じる前に次の調査が必要であろう。

比較方法としては、ホツマツタエ本文と日本書紀本文に記述される「共通の文章」、「出来事」について、時代考証を試みるのが先であろう。

ヒント

アヤと目次の違い。

すると、単純に音を当てれば「高」になるでしょう。

この段階で、「日の出と日没とを見ること」という語義は消滅します。

その代わりに、「日高見」という表記が生じます。ここから、高く登る日を見るという語義が生じてきます。このプロセスには不自然な点や不合理な点はありません。

次は、日本書紀が先と仮定してみましょう。

もしも日本書紀が先だったら？

引き続き、「日高見」と「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」とを比べてみましょう。

今回は、日本書紀が先だと仮定します。

「日高見」には、「高く登る日を見る」という語義があります。この語義は漢字表記から生じています。「日高見」をよみ下すと、「ひたかみ」という音列が生じます。「ひたかみ」という音列をヲシテ文字に直すと、「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」となります。



再(ご参考)

日
シナ(支那)語にも、
Riguang 日出
Rilou 日落
の言語があります。

これ以後の議論については、
日高見の漢字語とホツマのヲシテ語が違うため、余りにも違うため、比較する根拠が無意味と思われる。

理由

言語の作られた意味、生い立ちが違うものは、論理的に比較不可である。

それよりも、前述したように、同じ事象について、文章の書かれ方により、時代考証すべきであろう。

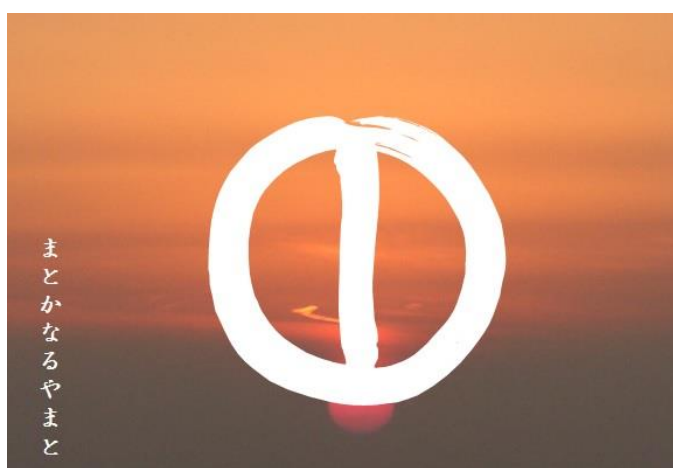
ホツマツタエの文脈からは、ヲシテ文献の「(ヒ)
(タ)(カ)(ミ)」というヲシテ文字から、「日の出と
日没とを見ること」という語義が生じます。

そして、「日の出と日没とを見ること」という語義
は、「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」というヲシテ文字形のイ
メージと合っています。

ヲシテ文字の「(タ)」には、熱が地表に入ってきて
て温まってくるイメージがあります。



また、ヲシテ文字の「(カ)」には、
光が去って行って暗くなっていくイメージがある
からです。



つまり、

「日高見」という漢字表記を音列にそのまま変換
し、その音列をそのままヲシテ文字に変換しただ

けで、

①「日の出と日没とを見ること」という別個の語義が生じております。

こうした語義の発生が偶然起こる確率は低いと思われる。

その上で、新たに生じた語義は、

②(タ)(カ)というヲシテ文字形にリンクしています。

このように、

①別個の語義が生じ、かつ

②生じた語義がヲシテ文字形にリンクする確率は、たいへん低いものと考えられます。

以上、日本書紀とヲシテ文献の単語の比較について、基本パターン(①+②)を示しました。しかし、「(ヒ)(タ)(カ)(ミ)」の場合には、

基本パターンの上に、更に別の要素③が加わります。

それは、

③「世界観へのリンク」

です。

以上、

青木純雄さんが「ヲシテ講座」紹介用に記された文章を転載させていただきました・・・が、続きの

③「世界観へのリンク」の記録がなく・・・。

これについては次回作の出版に期待するしかありません・・・。

ヲシテ研究の最新成果はこちら
続編「よみがえる日本語Ⅱ」

再(ご参考)

上記の見解を元にした本で、ホツマツタエと日本書紀のどちらが古いかを議論した新刊本が、ホツマ研究者より発行されております。ご参考になるようです。ご覧下さい。

題名

「ホツマツタエは日本書紀よりやはり古かった」編集者：吉田六雄